

コスト分析表

年 度 平成29年度

所 属 19150000

施 策 2104

生活環境部 交通防犯課

公共交通体系の充実

期 間 平成25年度 ~ 平成29年度

(単位：千円)

		NO	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
予 定	財源内訳	国庫支出金	(1)	0				
		都道府県支出金	(2)					
		地方債	(3)			0		
		その他	(4)					
		一般財源	(5)					
	直接費	事業費	(6)	273,988	292,776	369,507	382,628	405,791
		うち人件費	(7)					
		人件費以外(6)-(7)	(8)	273,988	292,776	369,507	382,628	405,791
	人件費	人件費	(9)					
		(正職員数:賦課)	(10)					
		(正職員数:配賦)	(11)					
		職員数合計(10)+(11)	(12)					
	間接費	(13)						
	調整額	(加算)減価償却費	(14)					
		(加算)金利	(15)					0
		(加算)退職給与引当	(16)		0			0
		(控除)コスト対象外	(17)					0
		(控除)雑収入	(18)					0
	調整額計 (14)+(15)+(16)-(17)-(18)	(19)		0			0	
	トータルコスト (8)+(9)+(13)+(19)	(20)	273,988	292,776	369,507	382,628	405,791	
実 績	財源内訳	国庫支出金	(21)	0			3,840	
		都道府県支出金	(22)				0	
		地方債	(23)				0	
		その他	(24)				11,670	
		一般財源	(25)				356,613	
	直接費	事業費	(26)	275,669	321,478	343,708	370,267	372,123
		うち人件費	(27)					0
		人件費以外(26)-(27)	(28)	275,669	321,478	343,708	370,267	372,123
	人件費	人件費	(29)					22,500
		(正職員数:賦課)	(30)					3.00
		(正職員数:配賦)	(31)					0.00
		職員数合計(30)+(31)	(32)					3.00
	間接費	(33)					0	
	調整額	(加算)減価償却費	(34)				0	0
		(加算)金利	(35)				0	0
		(加算)退職給与引当	(36)				0	0
		(控除)コスト対象外	(37)				0	0
		(控除)雑収入	(38)				0	0
	調整額計 (34)+(35)+(36)-(37)-(38)	(39)				0	0	
	トータルコスト (28)+(29)+(33)+(39)	(40)	275,669	321,478	343,708	370,267	394,623	

平成29年度 単位 施策評価表 補表

施策	2104 公共交通体系の充実		
区分	妥当性	妥当	高齢者や学生など、自家用車等を運転できない方の移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を図るため、ふれあいバス、蔵タクの運行が必要である。
	コスト削減の余地	無	現行のふれあいバス、蔵タクの運行内容を維持しつつ、コストの削減の実施は困難である。
	受益者負担	余地有	現在のふれあいバスの料金設定方法については、利用者にとってわかりにくい面もあり、検討する余地がある。
	上位貢献度	有効	公共交通体系の充実を図るためには、鉄道だけでは不十分であり、それを補完するふれあいバス、蔵タクの運行は、非常に有効である。
	類似事業の有無	無	現在、市内を運行する乗合の公共交通機関は、鉄道と私立高校の利用が主となる民間バス1路線のみである。
	成果向上の余地	有	ふれあいバスについては、路線・ダイヤ等の見直しや各種利便性向上策を実施することにより、利用者数の増加を図ることができる。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	上位施策の成果指標「公共交通の充実に対する市民満足度」を現状値42.6%から目標値60.0%に向上させるためには、公共交通機関の利便性の向上が必要であり、本単位施策の上位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	蔵タクについては、目標値の年間利用者数62,000人に対し、実績値が62,552人であり、目標を達成したが、ふれあいバスについては、目標値295,000人に対し、実績値が224,196人であり、利用者等からの要望を踏まえ、ダイヤの見直しや、定期券の割引率変更、1日乗車券の拡充による利便性向上策を実施したが、目標を達成できなかった。	
	課題	蔵タクについては、予約キャンセルが年6,000件を超えていることから、キャンセル対策が必要である。 ふれあいバスについては、利用者数は年々増加しているが、まだまだ満足のいくものではないことから、引き続き利便性向上やPR等の取り組みが必要である。	
	取組方針	蔵タクについては、利用日時の確認等を改めて行うことにより、予約キャンセルの減少を目指す。 ふれあいバスについては、実態調査や要望等により、需要の多いと見込まれる運行ルートの見直しや、わかりやすい停留所や時刻表の表示などPRに努め、利用者数の増加を図る。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	高齢者の増加や運転免許証自主返納者の増加などを踏まえ、自家用車を運転できない市民に対する、公共交通体系の充実が必要であり、上位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	蔵タクについては、出前講座等による積極的なPRの実施により、利用登録者、利用者共に毎年増加し、目標を達成している。 ふれあいバスについては、要望等を踏まえ、毎年、ダイヤの見直しを行っているが、路線の長距離化や、長距離化による便数減等により利用が減少した路線もあり、目標を達成できなかった。	
	課題	蔵タクについては、民間タクシー事業への影響や、ドライバー不足により、運行内容の拡充が難しく、効率化を実施する必要がある。 ふれあいバスについては、全体的な利用者数は年々増加しているが、まだまだ利用が少ないため、引き続き利便性向上やPR等の取り組みが必要である。	
	取組方針	蔵タク、ふれあいバス共に、実態調査や要望等により利用ニーズを把握し、運行内容の見直しや、市民へのわかりやすさに重点を置いたPRに努め、効率化と利用者数の増加を図る。	